



放射能との向き合い方を考える 2回連載（後編）

子どもにこそ 放射能の知識を。

福島第一原発事故直後から放射性物質の測定を続けてきた東京大学大学院助教の小豆川勝見さん。連載2回目では、小中学生を対象にした放射性物質についての学習会についてうかがいました。

子どもを対象にした教室を開催

「放射線の話はとってもむずかしいと思っていませんか？ そんなことはないんですよ」

そう話す東京大学大学院助教の小豆川勝見さんは、原発事故が起きた2011年から、放射線についての講演や学習会を各地で開催。東京や福島の小中学校に出向いて子ども向けの授業も行っています。

「事故直後は混乱していて、放射線について明らかに間違った情報も流れてきました。ところが、多くの人は学校でも放射線について学ぶ機会がなかったので基本的な間違いにも気づきません。たとえば自分の体重を測って4トンだと言われたら、誰でも『それは桁が違う』とすぐわかりますよね。当時はそのように誤ったデータが公表されていたこともあったんです。測定された放射線の数値が正しいのか、安全なのかを自分で判断するためには、まず正しい基礎知識を身に着けることが大切です」

放射線教室では、子どもたちに関心をもってもらうために「わかりやすく面白い理科の話」のように放射線や放射能を楽しく教える工夫をしているそうです。

「最初に『ガムテープをバリバリッとはがすときにも放射線（※）は出るんだよ』というような話をすると、子どもたちが『えー！？』とびっくりして前のめりになる。そこから、『それが身体にあたるとね……』と話を広げていくのです」

※非常に微弱なX線が放出されます。

次世代に正しい基礎知識を伝える責務

小学校高学年の生徒でも、授業を1時間受ける間に核分裂や原発の仕組みまで理解できるようになるそうです。びっしりと書き込まれた子どもたちの感想や質問からは、放射線についての興味や問題意識が伝わってきます。

「授業を受けたお子さんが家に帰って『お母さん、セシウムって知っている？』と聞いてきたら、親さんはドキッとするかもしれません。でも、そうやって学校や家庭で放射線教室

▶授業を受けた小学生が描いてくれた似顔絵を指さす小豆川さん。「微妙に苗字が間違っている点も含めてすべてが最高です！」（写真提供／小豆川さん ※下の写真2点も）



小豆川先生わかりやすく楽しい授業をありがとうございました。私は小豆川先生から放射線についておしゃべりを聞いて、「もっと放射線について知りたい」と思いました。そこで質問です。一人一人にも放射線について協力できることありますか？私は今回の授業で多くの人が協力すれば早くかいけつできると思いました。この質問をしました。今日は楽しい授業をしていただきありがとうございました。

▶授業を受けた小学生の感想文。「こうした子どもたちが増えれば、未来は明るいはず」と小豆川さん

のことが話題にのれば、周囲の大人が関心をもつきっかけになります。放射線や放射能の話をタブー視するのではなく、どんどんオープンに話題にして疑問や考えを話し合える環境をつくることが、結果としてリテラシー（理解力）を高める方法だと思うのです」

放射線に関するさまざまな情報が飛び交っているために、どう向き合つたらいいのか悩んでしまうという声は少なくありません。安全の基準は人それぞれに異なりますが、「正しい基礎知識」をもつことは、科学的根拠に基づいて判断していくために欠かせない土台なのだと小豆川さんは話します。

「原発事故が収束するまでには、まだ何十年と長い時間がかかります。今の子どもたちは大人になっても放射能と向き合わなければならない。だからこそ、次世代にきちんとした知識を伝えていくことは、私たち大人の責務だと思って、この取り組みを続けています」



Profile

小豆川 勝見さん
(しょうずがわ・かつみ)

1979年生まれ。東京大学大学院総合文化研究科助教。東京都世田谷区教育委員会の放射線アドバイザー。放射線を分かりやすく子どもに伝える講演や学習会を行っている。著書に『みんなの放射線測定入門』（岩波科学ライブラリー）など。

福島第一原子力発電所から300mほどの帰還困難区域（大熊町）からオンライン講義をする小豆川さん。後ろのモニタリングポスト（放射線の測定装置）は都内の約100倍となる4.2μSv/hを示し、足元の排水溝を測ると、さらに高い80μSv/h以上となっていました（2020年9月15日）

Q 放射能検査状況について

2020年度の検査数（カッコ内は検出件数）／2020年10月7日現在
※最新の検査状況は下記左側の二次元コードよりご覧いただけます。

総計：1004(15) 不検出率：98.5%

2019年度の検査数 総計3025(30) 不検出率99.0%

青果	271 (2)	2019年度は伊予柑（3.1Bq/kg）、2020年度はれんこん（3.5～7.8Bq/kg）から放射能が自主基準内で検出されました。
しいたけ	19 (13)	2019年度は冷凍産直木しいたけ（カット）（5.8Bq/kg）、2020年度は生しいたけ（5.0～11Bq/kg）、岩手県産乾しいたけ（5.0Bq/kg）から放射能が自主基準内で検出されました。
他のきのこ類	24 (0)	2019年度に続き、10月7日現在で放射能の検出はありません。
米・米飯類	16 (0)	2020年産の玄米は15産地15検体を検査し、不検出でした。今後も順次、米の検査を行っていきます。

牛乳、肉、卵	26 (0)	産地ごとに定期的に検査しています。2019年度に続き、10月7日現在で放射能の検出はありません。
魚介類	64 (0)	2019年度に続き、10月7日現在で放射能の検出はありません。
飲料水・飲料	28 (0)	2019年度に続き、10月7日現在で放射能の検出はありません。
乳幼児用食品	100 (0)	2019年度に続き、10月7日現在で放射能の検出はありません。
その他加工食品	456 (0)	2019年度は茨城の紅はるか干しいも（3.7Bq/kg）、ほしいも（3.6Bq/kg）から放射能が自主基準内で検出されました。

※乳幼児用食品のみ検出下限値1Bq/kg、その他は検出下限値3Bq/kg。



●週次の「放射能関係のお知らせ」はインターネットに掲載しています。

●インターネットから見られない方はこちらにお問い合わせをお願いします。

パルシステム東京・パルシステム神奈川・パルシステム千葉・パルシステム埼玉・
パルシステム茨城・栃木・パルシステム福島・パルシステム静岡・パルシステム新潟ときめき

パルシステム
問合せセンター

0120-868-014

月～金曜日：9時～20時
土曜日：9時～17時

※お問い合わせ内容の確認とサービス向上のために、通話の内容を録音しております。

パルシステム山梨

甲斐センター 0120-28-5891 高崎センター 0120-60-5118

西桂センター 0120-32-1061 渋川センター 0120-36-3315

一宮センター 0120-21-9898 東毛センター 0120-63-3735

※センターによって、携帯電話からはご利用できない場合があります。